

IAUD Newsletter Vol.4 第08号 (2011年9月号) 目次

1. 特集：IAUD アワード 2010 大賞の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 開催目前「48時間デザインマラソン in かなざわ」記者発表会・・・・・・・・・・ 5
3. IAUD 10月の予定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

～特集：IAUD アワード 2010 大賞の紹介 フィリピンで UD の普及を目指して

「地方における障害者のためのバリアフリー環境形成プロジェクト」



IAUDNewsletter 第1号から4回に渡って掲載してきました「IAUD アワード 2010」受賞紹介の最後は、28件の応募の中から大賞を受賞した、フィリピン国家障害者協議会（NCDA）と国際協力機構（JICA）によるフィリピンの「地方における障害者のためのバリアフリー環境形成プロジェクト」です。

このプロジェクトは、JICAがフィリピンの社会福祉開発省傘下にあるNCDAと協力して2008年10月から2012年9月まで実施している活動で、公共施設の修復

を通じた「物理的アクセス」と障害者のエンパワメントやコミュニティでの啓発活動を通じた「社会的アクセス」の改善を目指しています。

IAUD アワード選考委員会からは、いまだ UD の概念が周知されていない開発途上国で、バリアフリーの知識と技術を移転することは、今後、UDを広める第一歩として意義深いものであると、高く評価されました。

このプロジェクトの詳細を、JICA 専門家の鷲谷大輔氏にご紹介いただきます。

貧しい農村地域の障害者をプロジェクトの中心に

フィリピンでは、1984年に施行された Batas Pambansa Bilang 344（通称「アクセス法」）によってバリアフリー環境の整備が規定されています。しかし、いまだに多くの課題を抱えており、UDという概念も周知されていないのが現状です。

当プロジェクトは、主に障害者のバリアフリーに焦点を当て、障害者を中心に据えています。また、「貧しい農村地域」を対象としており、以下の2つの地方自治体でプロジェクト活動を実施しています。

ニュー・ルセナ、イロイロ
Region VI (パナイ島)

オポール、ミサミスオリエン
タル
Region X (ミンダナオ島)



マニラなどの大都市圏と異なり、地方では知識や資源が不足しがちです。建築を許可する立場にある自治体の技師などは、アクセス法に対する知識に乏しく、資金不足から市庁舎や市営病院など主要な公共施設でさえも、バリアフリーが未確保なのが現状です。

障害者の能力開発と組織強化



障害者の家へと続く舗装されていない道

多くの農村地域の障害者は、コミュニティに存在する物理的なバリアや心のバリアにより、社会への参加や自立への機会が制限されています。そこで、当プロジェクトでは、自立発展性の観点からも、障害者の能力開発、障害当事者団体の育成と強化、啓発活動などを通じて、対象農村地域におけるバリアフリー環境づくりを支援し、他地域への拡大と応用を目的とした教訓の蓄積や方法（論）の形成を進めています。

また、アクセス法の遵守という視点の他に、障害者を中心としたユーザーの視点や「使いやすさ」の視点を大切にしています。

【主な活動構成】

1. 実施体制づくり：中央・地域・地方自治体レベルにおけるプロジェクト実施・モニタリング体制づくり
2. ベースライン情報の収集：対象地域における障害者数や障害の種類、また建築物のバリアフリー状況など基礎情報の収集
3. 人材育成・能力開発：対象地方自治体、障害者、障害当事者団体、その他プロジェクト関係者に対する研修、セミナー、ワークショップなどの実施
4. 啓発と権利擁護：バリアフリー環境推進のためのコミュニティにおける啓発活動の実施

5. ネットワークづくり：バリアフリー環境形成の教訓や方法（論）を他農村地域へ広げ応用するためのネットワークづくり

具体的な活動

1. アクセス監査研修

「フィリピン建築士連合」の「アクセス委員会」に所属する障害のある建築士や有識者などと協力して、対象地方自治体の技師や障害者に対して「アクセス監査研修」を実施し、主にフィリピンのアクセス法に関する知識の向上を目的とした講義を行いました。

2. アクセス監査の実地研修



寸法を測る参加者

参加者はほぼ全員車椅子使用者や肢体不自由の障害者で、研修後も「アクセスモニタリング委員」の一員としてアクセス監査を続け、自治体の技師など関係者にユーザーの視点から気付いた問題点や解決策を提案し続けていくことが期待されています。

上記の「アクセス監査研修」が講義中心であったこともあり、「アクセス監査の実地研修」を実施しました。この研修では、障害者にとって「使いやすい」環境づくりを目的とし、障害者の視点に配慮したチェックリストを使用しました。

チェックリストでは、アクセス法で規定されている寸法をチェックする項目だけでなく、「車椅子から便座に移れますか」や「車椅子でスロープを使えますか」など、実際に試してみないと答えられない質問が多く含まれています。

3. 日本人講師による UD 研修

日本から東洋大学教授の川内美彦氏を研修講師として招き、「UD 研修」を実施しました。日本の UD の現状紹介や専門家のアドバイスを受けながら、UD の概念を取り入れた公共施設の改善プランの提案や設計などを行い、参加者は「できるだけ多くの人にとって使いやすいデザイン」への理解を深めました。

デザインには、資源が不足しがちな農村地域という環境に鑑み、現地で入手可能な資機材をできる限り活用し、持続性及び費用対効果の向上を図りました。



実際に公共市場で作られた木製スロープ

また、プロジェクトでは、自主性や持続性の観点からも、建物の改修工事にかかる費用は全てフィリピンの自治体や関係省庁の自己資金からの投入としています。

4.UD の体験学習



UD の推進に積極的な東京都江東区の小学校で行なわれた「体験ワークショップ」に参加したフィリピン人が、自分たちの自治体でも同じようなワークショップを開催したいと、「UD の体験学習」を実施しました。ワークショップでは、フィリピンの小中学生がレストラン、美容室、菓子店、玩具店、カフェテリア、更には警察、病院、村役場、市庁舎などのある「街」をつくり、車椅子使用者、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者や、高齢者、ベビーカーを押すお母さん、外国人などがお客さん役として参加しました。

特に子ども達が苦労したのは、聴覚障害者と外国人で、村長役に扮した中学生の男の子はジェスチャーで意思疎通を試みたり、紙に絵を描いてみたり、様々な工夫を凝らしていました。

この活動は、普段接することのない障害者や高齢者との交流を通じて、不便な点や新たな視点、そして工夫や改善点を話し合う、UD 体験の良い機会となりました。また、将来を担う子ども達、そして家族や地域に対する啓発活動の良い機会となりました。

この活動は、普段接することのない障害者や高齢者との交流を通じて、不便な点や新たな視点、そして工夫や改善点を話し合う、UD 体験の良い機会となりました。また、将来を担う子ども達、そして家族や地域に対する啓発活動の良い機会となりました。

5.コミュニティでの啓発活動

プロジェクトでは自治体や村レベルで、多くの啓発活動を実施しています。



自治体広場前での壁画コンテスト



障害啓発を目的とした人形劇



障害予防リハビリテーション週間でのパレード

小中学生を対象としたマンガ本の作成

更なる UD の普及に貢献するために

「アクセス監査の実地研修」など、障害者の視点を取り入れたアプローチは関係者に大きなインパクトを与えました。しかし、車椅子利用者など一部の障害者のみを対象としている点など今後の課題もあり、プロジェクトでは可能な限り視覚障害者や聴覚障害者などの視点、そして UD の視点を加えたアクセス監査の実施に向け今後も関係者と話し合いを続けていく予定です。

一方、「UD 研修」や「UD の体験学習」では、「できるだけ多くの人々」の視点を取り入れ、UD に対する配慮も始めています。

IAUD アワード選考委員長のロジャー・コールマン氏の講評で「バリアフリーに焦点を当てることは問題ではなく、そのレベルから始めることが UD を広める第一歩として必要」という力強いお言葉を頂いたことは、関係者にとって大きな励みとなりました。これからも、村レベルの「地域に根ざした」活動を実施し、孤立しがちな貧困層や社会的弱者の意思が反映される環境づくりを支援していきます。

また、地方での活動の他にも、2つの対象自治体や NCDA に蓄積された教訓や方法（論）を他農村地域へ広げ応用するための中央、地域レベルにおけるネットワークの構築、そしてフィリピン側の自主性や自立発展性の向上を図り、プロジェクト終了後も活動を継続的に展開していくために必要な社会体制の構築を推進していきます。

今後も、バリアフリー環境、更にはフィリピンにおける UD の普及に少しでも貢献し、できるだけ多くの人々に裨益するような活動を実施していきます。

(了)

開催目前「48時間デザインマラソン in かなざわ」記者発表会

9月29日（木）から10月2日（日）までの4日間、金沢美術工芸大学（石川県金沢市）で開催される特別ワークショップ「48時間デザインマラソン in かなざわ」（主催：IAUD、後援：金沢市、金沢商工会議所）の記者発表会が9月22日（木）、金沢市政記者室で行われ、北陸中日新聞など地元メディア3社が出席した。

IAUD 情報交流センターの西村澄夫所長は「将来的には、デザイナーだけでなく市民グループや行政関係の方にも参加していただき、地元ならではの課題を UD で解決していきたい」と強調した。また、運営責任者である IAUD ワークショップ委員会の牧野克己委員長からは実施内容の説明が行われた。

48 時間デザインマラソンは、UD の普及啓発と人材育成、新たなデザイン開発手法を探求する学びの場として、2004 年から IAUD が継続的に取り組んでいる活動。今回は「観光の魅力向上させる UD」をテーマに、ユーザーと企業デザイナー、学生を中心に編成された 5 チームが金沢市内での現場調査から課題を発掘し、UD の具現化と提案準備までを 48 時間以内に行う。

最終日の公开发表審査には、来場者やマスメディアに対して公開プレゼンテーションを行い、会場全員による審査で優秀作が表彰される。

48 時間デザインマラソンの詳細はこちらにリンクしてください↓

<http://www.iaud.net/event/archives/1108/08-000000.php>

IAUD 10 月の予定

9 月 29 日 (木) ~ 10 月 2 日 (日) WS 委員会「48 時間デザインマラソン in かなざわ」

金沢美術工芸大学 (石川県金沢市)

- | | |
|---------------------|---|
| 4 日 (火) 15 時~ | 衣の UDPJ 定例会 (IAUD サロン) |
| 6 日 (木) 15 時~ | メディアの UDPJ 定例会 (IAUD サロン) |
| 7 日 (金) 13 時 30 分~ | 標準化 WG 定例会 (榊東芝本社ビル) |
| 8 日 (土) ~ 10 日 (日) | 余暇の UDPJ 「キッズデザイン展 2011」 出展
イオンレイクタウン kaze3 階イオンホール (埼玉県越谷市) |
| 14 日 (金) 11 時~ | 食の UDPJ 見学会 富士レークホテル (山梨県河口湖) |
| 21 日 (金) 13 時 30 分~ | 余暇の UDPJ 定例会 (IAUD サロン) |
| 27 日 (火) ~ 28 日 (水) | 住空間 PJ ワークショップ
デイサービスセンター「夢のみずうみ村」 (千葉県浦安市) |

メンバー募集中の研究部会・委員会ははこちらにリンクしてください↓

<http://www.iaud.net/news-f/archives/1106/21-114818.php>

次号は 10 月上旬発行予定

特集 (予定): 「48 時間デザインマラソン in かなざわ」 開催速報 他

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン) :
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話: 03-5541-5846 FAX: 03-5541-5847 e-mail: salon@iaud.net